



保育園前の長久保公園で遊んでいると金木犀の香りに包まれ、短い“秋”を感じることができます。子どもたちも金木犀の花が落ちたオレンジ色の地面の上で花びらや落ち葉を拾ったり、鬼ごっこで身体を動かしたりと、笑顔で楽しむ様子が見られます。気温も少しずつ下がり、体調管理にも気をつけたい時期。手洗いなどの衛生面に目を向けつつ、たくさん遊び、たくさん食べ、元気いっぱい過ごしていきましょう!!

「どうしたいの？」～ 気持ちを言葉に ～

先月の園だよりも載せましたが、子どもたちの遊びは少しずつ広がりをみせ、2，3人で1つの遊びをすることも増えてきています。またボードゲームや戸外での鬼ごっこでは4人以上で遊ぶことも!!

友だち関係が広がっていく中で大切になるのは「**言葉で伝える（言語化する）**」ということです。改めて部屋の中を見渡すといういろいろな所でそれぞれの主張（思い）が見られます。

子どもたちから出てくる「ぼくがやりたい!」「いや!」「入れて!」などの主張たち。保育者はどの場面でも一人ひとりの主張（思い）を大切にしつつ、もう少し具体的に言葉を引き出していくようにしています。

例えば、「ぼくがやりたい!」に対し、「何をやりたいの?」「〇〇がやりたいの。」「一人でやりたいの?それとも誰かお友だちとやりたいの?」といったように言葉のやりとりを重ねながら、自分の思いが具体的に整理できるように支援をしています。もちろんまだまだ難しい場面は多いのですが、少しずつ子ども同士の会話で「**どうしたいの?**」と相手に聞くことが見られることもあり、積み重ねることの大切さを実感しています(*^^*)

また友達関係の場面以外にも「言葉で伝える（言語化する）」ことを大切にしています。例えば、洋服を着替えるときになかなか服が脱げなくて泣いている子…。その子に対し保育者がサッと手伝うことは簡単ですが、まずは「**どうしたいの?**」と聞いてみる。すると泣きながらも「手伝って!」と伝えてくれます。

「どこが難しいの?」「手（袖）ができない…。」とここでも言葉のやりとりを重ねることで“泣いて訴える”から「**言葉で伝える（言語化する）**」ことを意識して支援をしています。

自分だけの世界から他者へ興味を持ち、その繋がりを様々な関わりから広げていく子どもたち。もちろんまだ一人遊びが好きな子もありますが、周りから刺激を受けていることは間違いありません。そして日々の園生活のいろいろな経験を通してからも多くの刺激を受けて成長しています。「言葉で伝える」ことはその中の一つに過ぎませんが、その一つひとつを大切に、それぞれの子どもたちの“世界”がより広がり充実できるように、保育者も一人ひとりにしっかりと関心を向けて、これからも日々の保育に向き合っていきます!!

